発行月：平成26年10月　家族新聞　第352号

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事　髙橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
（渋川福祉センター内）
TEL 0561-51-2878

平成二十六年十月二十三日
午後一時三十分
坐禅　福田寺

所作が整えば、心も綺麗になるし、身のこなしも綺麗になる。そういう人は、他人の目に「美しい人」として映るようになります。何よりも、本人が清々しく生きることができ、心も強くなるのです。

坐禅の心がまえを聞く子供達。

坐禅開始です。

現代は、ものと情報があふれ、変化が激しく、消費のスピードも速い。そのなかで日本本来の美しさがどんどん失われていくように感じられます。しかし、日本は"すさび心"にじみ出る美しさ、過剰ではないが揺るがない強さを秘めた美しさを持って生きてきました。

その美しさの正体は禅です。ものすごくたくさんの知恵が詰まっているからです。

行動の折り目は、心の折り目。「折り目正しい」という言葉があります。「彼女はいつも折り目正しいね」という使い方をするわけですが、昔は日常的に使われていたこの言葉も、この頃はあまり耳にしなくなりました。

若い世代には「意味不明」なんて人もいるかもしれません。この意味は、礼儀正しい行動がきちんとしている、ということです。

あいさつの力を知る。

あいさつは自分から大きな声でする

あいさつは漢字で「挨拶」と書きますが、これはもともと禅語です。漢字の「挨」も「拶」も"押し合う"ということ。心のない形を推しはかり、相手の悟りの程度を知ろうとするというのがその本来の意味です。

たかがお茶、されどお茶。

たかが湯を沸かして飲むだけのお茶ですが、これがなかなかできない。

「ただ」の意味は「ひたすら」ということです。湯を沸かすことにただそのことだけにひたすら一打懸命になる。

急須にお茶の葉を入れることも、急須から茶碗に注ぐことも同じようにひたすら一打懸命です。

一つ一つに心がこもり、お茶に込めた心は飲む人にも伝わります。

「ただ」に徹することが大事です。

集合写真

坐禅を終えてお茶の休憩